

第38回大会

日時・平成6年8月10日、11日、12日
コース・霞ヶ関カントリー倶楽部・東コース
(男子6,960Y・パー72 女子6,086Y・パー72)

●男子の部●

- ① 近藤 智弘 (学館浦安) 36・34(70) 35・37(72) 35・36(71) 213
- ② 桧垣 豪 (箕面自由) 37・38(75) 33・36(69) 34・37(71) 215
- ③ 田島 創志 (高崎) 37・33(70) 39・36(75) 36・36(72) 217
- ③ 米倉憲太郎 (冲学園) 34・38(72) 35・36(71) 36・38(74) 217
- ⑤ 木村 忠昭 (長崎日大) 33・37(70) 38・36(74) 38・36(74) 218
- ⑥ 吉永 智一 (柳川) 35・37(72) 39・39(78) 36・36(72) 222
- ⑥ 小田 龍一 (志布志実) 36・36(72) 37・35(72) 37・41(78) 222
- ⑧ 中原 鉄平 (柳川) 37・39(76) 34・39(73) 37・38(75) 224
- ⑧ 長野 正弥 (れいめい) 34・40(74) 37・37(74) 37・39(76) 224
- ⑩ 横山 勝治 (日体荏原) 36・35(71) 40・37(77) 38・39(77) 225

●女子の部●

- ① 李 定 垠 (韓国世和女子高) 36・36(72) 39・38(77) 149
- ② 中島 真弓 (学館浦安高) 38・40(78) 38・36(74) 152
- ※② 中田 美枝 (北海道工高) 33・39(72) 39・41(80) 152
- ④ 米山みどり (豊橋西高) 39・40(79) 37・37(74) 153
- ⑤ 坂口 由佳 (大体大浪商高) 40・37(77) 39・39(78) 155
- ⑤ 吉田希美代 (滝高) 38・39(77) 38・40(78) 155
- ⑤ 福嶋 浩子 (白鷗女子高) 41・36(77) 40・38(78) 155
- ⑤ 五十嵐瑞江 (堀越高) 37・37(74) 41・40(81) 155

前年の韓選手に続いて韓国の李選手が女子の部を制した。韓選手同様の春夏連覇で韓国勢のレベルアップは著しい。男子は1メートル66、52キロの小兵・近藤選手が飛ばし屋の星野、桧垣、米倉選手らを刻みのゴルフで倒した。

第39回大会

日時・平成7年8月17日、18日、19日
コース・那須野ヶ原カントリークラブ
(男子6,916Y・パー72 女子6,260Y・パー72)

●男子の部●

- ① 星野 英正 (仙台育英) 33・37(70) 33・31(64) 35・36(71) 205
- ② 波当根弓彦 (学館浦安) 36・37(73) 34・36(70) 35・36(70) 213
- ② 野田 賢蔵 (柳川) 34・35(69) 38・37(75) 35・34(69) 213
- ④ 近藤 智弘 (学館浦安) 34・36(70) 39・35(74) 35・36(71) 215
- ④ 市原 建彦 (水城) 34・37(71) 37・33(70) 36・38(74) 215
- ⑥ 横山 勝治 (日体荏原) 35・34(69) 37・35(72) 39・37(76) 217
- ⑦ 桜井 秀剛 (学館浦安) 40・35(75) 35・35(70) 35・38(73) 218
- ⑦ 岡本 隼 (日体荏原) 36・36(72) 39・37(76) 34・36(70) 218
- ⑨ 室井 憲男 (都岡) 38・34(72) 36・37(73) 39・35(74) 219
- ⑩ 田中 大介 (佐野日大) 39・35(74) 36・35(71) 37・38(75) 220
- ⑩ 比留川 修 (横浜) 35・37(72) 35・39(74) 36・38(75) 220
- ⑩ 中田 範彦 (日体荏原) 40・36(76) 36・37(73) 36・35(71) 220

●女子の部●

- ① 高橋美友紀 (埼玉栄) 36・38(74) 35・34(69) 143
- ② 高橋美保子 (仙台育英) 35・39(75) 33・38(71) 146
- ③ 西川みさと (武蔵野) 38・33(71) 38・38(76) 147
- ③ 西川 藍 (武蔵野) 37・37(74) 37・36(73) 147
- ⑤ 大山 志保 (熊本中央女子) 39・37(76) 35・37(72) 148

男子は“東北の怪童”星野選手が2位に8打差をつける大会最少スコアの通算11アンダーでぶっちぎりの初優勝を飾った。女子は2位スタートの高橋美友紀選手が自己ベストの69をマークして3打差を逆転、アンダーパーで初V。

第40回大会

日時・平成8年8月15日、16日、17日
コース・那須野ヶ原カントリークラブ
(男子6,907Y・パー72 女子6,260Y・パー72)

●男子の部●

- ① 市原 建彦 (水城) 32・34(66) 34・35(69) 34・33(69) 202
- ② 宮里 優作 (大阪桐蔭) 36・35(71) 37・37(74) 34・30(64) 209
- ③ 砂入 雅之 (広陵) 36・34(70) 35・35(70) 36・34(70) 210
- ④ 野田 賢蔵 (柳川) 32・35(67) 36・38(74) 32・38(70) 211
- ⑤ 秋元 一男 (日大) 35・36(71) 37・34(71) 37・35(72) 214
- ⑥ 吉田 敬三 (明德義塾) 33・38(71) 36・37(73) 36・35(71) 215
- ⑦ 壺谷 紀之 (佐野日大) 36・35(71) 36・38(74) 39・35(74) 219
- ⑧ 中原 鉄平 (柳川) 37・35(72) 39・38(77) 34・37(71) 220
- ⑧ 戸叶 雄二 (埼玉栄) 37・38(75) 36・35(71) 38・36(74) 220
- ⑧ 谷原 秀人 (瀬戸内) 38・34(72) 35・39(74) 38・36(74) 220

●女子の部●

- ① 大川 詩乃 (駒大岩見沢) 39・36(75) 38・35(73) 148
- ② 勇 知江 (熊本中央女子) 37・36(73) 36・41(77) 150
- ② 今井 晴香 (中京商) 37・37(74) 38・38(76) 150
- ④ 小林 英恵 (堀越) 39・36(75) 39・38(77) 152
- ⑤ 斎藤 美香 (冲学園) 35・39(74) 40・39(79) 153
- ⑤ 新崎 弥生 (熊本中央女子) 39・37(76) 40・37(77) 153
- ⑤ 土肥 友子 (堀越) 37・40(77) 38・38(76) 153

世界ジュニアを制した市原選手が前年の星野選手が記録した11アンダーをしのぐ通算14アンダーの大会最小スコアで優勝した。女子は大川選手が我慢のゴルフで2打差を逆転し、北海道勢としては初めての日本一に輝いた。